

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年12月27日

【四半期会計期間】 第13期第2四半期(自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)

【会社名】 株式会社エボラブルアジア

【英訳名】 Evolvable Asia Corp.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 吉村 英毅

【本店の所在の場所】 東京都港区愛宕2丁目5番1号

【電話番号】 03-3431-6191 (代表)

【事務連絡者氏名】 代表取締役CFO 柴田 裕亮

【最寄りの連絡場所】 東京都港区愛宕2丁目5番1号

【電話番号】 03-3431-6191 (代表)

【事務連絡者氏名】 代表取締役CFO 柴田 裕亮

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

2019年5月15日に提出いたしました第13期第2四半期（自 2019年1月1日 至 2019年3月31日）に係る四半期報告書の記載事項の一部に誤りがありましたので、これを訂正するため四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の四半期連結財務諸表については、三優監査法人により四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しております。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

第2 事業の状況

2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

第4 経理の状況

1 要約四半期連結財務諸表

(1)要約四半期連結財政状態計算書

(2)要約四半期連結損益計算書

第2 四半期連結累計期間

第2 四半期連結会計期間

(3)要約四半期連結包括利益計算書

第2 四半期連結累計期間

第2 四半期連結会計期間

(4)要約四半期連結持分変動計算書

(5)要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

要約四半期連結財務諸表注記

4 . セグメント情報

5 . 企業結合

9 . 1 株当たり利益

12 . 過去に発行した要約四半期連結財務諸表の修正再表示

3 【訂正箇所】

訂正箇所は____を付して表示しております。

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第12期 第 2 四半期 連結累計期間	第13期 第 2 四半期 連結累計期間	第12期
会計期間	自 2017年10月 1 日 至 2018年 3 月31日	自 2018年10月 1 日 至 2019年 3 月31日	自 2017年10月 1 日 至 2018年 9 月30日
売上収益 (第 2 四半期連結会計期間) (百万円)	3,449 (1,825)	10,643 (5,907)	12,426
税引前四半期(当期)利益 (百万円)	793	140	1,128
四半期(当期)利益 (百万円)	595	152	982
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益又は損失() (百万円) (第 2 四半期連結会計期間)	513 (410)	78 (280)	844
四半期(当期)包括利益 (百万円)	566	145	976
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)包括利益又は損失() (百万円)	498	74	842
親会社の所有者に帰属する持分 (百万円)	4,205	7,393	5,089
資産合計 (百万円)	12,758	28,634	24,929
基本的 1 株当たり 四半期(当期)利益又は損失() (円) (第 2 四半期連結会計期間)	29.71 (25.69)	4.31 (15.20)	48.51
希薄化後 1 株当たり 四半期(当期)利益又は損失() (円)	28.62	4.16	46.74
親会社所有者帰属持分比率 (%)	32.96	25.80	20.41
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	912	536	527
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	740	795	1,010
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,807	2,949	3,662
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	3,218	6,932	5,320

(注) 1 . 当社は要約四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 . 売上収益には、消費税等は含まれておりません。

3 . 上記指標は、国際会計基準(IFRS)により作成した要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいております。

第2 【事業の状況】

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社グループは、前連結会計年度よりIFRSに準拠した連結財務諸表を開示しており、前第2四半期連結累計期間の数値もIFRSベースに組み替えて比較・分析を行っております。

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、先進国を中心に堅調を維持しましたが、米国と中国との貿易摩擦等、先行きの不透明さが増しております。わが国経済では雇用・所得環境の改善が堅調に推移し、緩やかな回復基調が続きました。また、2020年の東京オリンピック開催や2025年の大阪万博を控え、国内需要の増加やインバウンド需要による後押しにより、引き続き堅調なペースで景気が拡大しております。

旅行業界におきましては、2019年1月から3月の日本人出国者数の累計は491万人で、前年同月時点の累計を約29万人上回っております。(出所：日本政府観光局(JNTO))また、訪日外国人観光客は2019年1月から3月で805万人を超え、2016年3月に決定した「明日の日本を支える観光ビジョン」における2020年の目標である4,000万人に向け、順調に推移しております。

このような状況のもと、当社はオンライン旅行代理店として、国内航空券・海外航空券販売を主軸に、サービスラインの多角化と主要ブランドである「エアトリ」の認知度向上に向けた大幅な広告投資を図り、引き続き業容を拡大して参りました。また、オンライン旅行事業におけるノウハウを活かし、訪日旅行者を対象としたサービスを引き続き推進しております。

2012年より開始したITオフショア開発事業においては、ベトナムにおけるラボ型開発を主軸に、多業種にわたり順調に顧客先を獲得し、雇用エンジニア数を増加させ、2019年3月現在は1,000名規模まで成長しております。また、上場来本格化した投資事業においては、成長企業への投資を積極的に進め、2019年3月現在、投資先を54社まで拡大しております。

このような環境の中、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上収益は10,643百万円(前年同期比308.5%増)、営業利益は178百万円(前年同期比22.5%)、税引前四半期利益140百万円(前年同期比17.7%)、親会社の所有者に帰属する四半期利益は78百万円(前年同期比15.2%)となりました。

セグメントごとの業績を示すと、次のとおりであります。

オンライン旅行事業

オンライン旅行事業では、以下5つのサービスを提供しております。

- ・BtoCサービス(PC、スマートフォンにて一般消費者向けの旅行商材の直販サイトの運営)

新規顧客の獲得、及び将来的な安定した顧客基盤の形成のために、テレビCM、電車広告等を中心としたマスマーケティングへの大幅な先行投資、並びに、リピーター増加施策のためにUIの改善等を実施したことが寄与し、利用者が順調に増加致しました。

当社ブランドであるエアトリの認知度向上や顧客獲得を目的とする戦略的な価格設定やブランディングコストの積極的な投下を実施致しました。

- ・BtoBtoCサービス(提携先企業のブランドにて旅行コンテンツを提供する事業)

大手提携先の開拓強化、主要取引先のニーズに合致したサービスの提供、取引先とのコミュニケーションを強化したことが寄与し、利用額が増加致しました。また、BtoCサービスと同様に、顧客拡大に重点を置いたマーケティング施策や提携施策の推進を実施致しました。

- ・BtoBサービス(他社旅行会社に対するホールセール事業)

航空会社の業界動向や取引先の施策に影響を受け、売上高は堅調に推移しました。

- ・BTMサービス(企業の出張に係る社内承認手続き及び手配を一元管理する事業)

基本的に顧客企業数の増加及び利用率の増加と連動して売上が増加するビジネスモデルであるため、営業人員の追加、及び既存顧客中の利用率が相対的に低い顧客の掘り起し等を実施したことにより成長しました。

- ・訪日サービス(訪日旅行者向けの各種BtoCサービスを実施する事業)

Wi-Fiのレンタル、キャンピングカーのレンタル、両替、Webメディアの運営等を展開しており、各事業ラインともに、訪日旅行者の増加、多言語展開、及びマーケティングの強化により、売上高利益ともに順調に成長しまし

た。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のオンライン旅行事業の売上収益は9,500百万円(前年同期比413.9%)、セグメント利益は234百万円(前年同期比806.8%)となりました。

ITオフショア開発事業

ITオフショア開発事業では、ベトナムのホーチミン、ハノイ及びダナンにて、主にEコマース・Webソリューション・ゲーム・システム開発会社等を顧客として、ラボ型の開発サービスを提供しております。

当社のラボ型開発モデルは、顧客ごとに専属のスタッフを都度新規採用してチームを組成する点にあります。また、顧客が随時ラボの開発状況を確認することが可能なスタイルとなっております。専属スタッフの中長期的なアサインを前提としておりますので、採用段階でいかに顧客のニーズに合致した人材を採用するか、各エンジニアのモチベーションをいかに高めていくかが開発の成否を左右します。

また、基本的に人月単価×人員数によって顧客に請求を行うビジネスモデルであり、クライアントに提供するエンジニア数と人月単価が売上に大きく影響を与えます。当連結会計年度においてはエンジニアの人員数の増加と、開発の効率化に伴う単価の上昇が、売上の増加に寄与しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間のオフショア事業の売上収益は1,142百万円(前年同期比+8.4%)、セグメント利益は111百万円(前年同期比+6.8%)となりました。

投資事業

投資事業では、既存事業とのシナジーを重視し、積極的なM&A、資本業務提携により、サービスラインの拡充とともに収益向上のために、成長企業への投資を推進しております。当連結会計年度においては、投資先を54社まで拡大しております。その結果、当第2四半期連結累計期間の投資事業の売上収益は0百万円(前年同期比99.0%)、セグメント利益は237百万円(前年同期比74.2%)となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末に比べ3,729百万円増加し28,658百万円となりました。これは主に、現金及び現金同等物が1,612百万円、営業債権及びその他債権が1,159百万円増加したことによるものです。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債につきましては、前連結会計年度末に比べ1,333百万円増加し20,792百万円となりました。これは主に、営業債権及びその他の債務が933百万円、有利子負債が704百万円増加したことによるものです。

(資本)

当第2四半期連結会計期間末における資本は、前連結会計年度末に比べ2,395百万円増加し、7,866百万円となりました。これは主に、資本金が1,196百万円、資本剰余金が1,019百万円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)の残高は、前連結会計年度末より1,612百万円増加し、6,932百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下の通りです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動により使用した資金は、前同四半期連結累計期間より375百万円減少

し、536百万円となりました。この主な要因は、税引前四半期利益を140百万円計上し、営業債務及びその他の債務が295百万円減少した一方で、営業債権及びその他の債権が487百万円減少したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動により使用した資金は、前同四半期連結累計期間より54百万円増加し、795百万円となりました。この主な要因は、無形資産の取得による支出615百万円、有形固定資産の取得による支出102百万円、敷金の回収による収入82百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動により獲得した資金は、前同四半期連結累計期間より142百万円増加し、2,949百万円となりました。この主な要因は、借入に伴う短期借入金の純増減333百万円、長期借入金の借入による収入1,401百万円、株式の発行による収入2,366百万円、長期借入金の返済による支出970百万円によるものであります。

第4 【経理の状況】

1 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」といいます。)第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年1月1日から2019年3月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(2018年10月1日から2019年3月31日まで)に係る要約四半期連結財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けています。

1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物		5,320	6,932
営業債権及びその他の債権		4,442	5,601
その他の金融資産	10	3,889	4,547
棚卸資産		87	231
未収法人所得税		132	151
その他の流動資産		1,331	1,223
流動資産合計		15,202	18,689
非流動資産			
有形固定資産		1,111	1,311
のれん		5,091	5,039
無形資産		2,302	2,453
その他の金融資産	10	1,055	996
その他の非流動資産		83	70
繰延税金資産		82	97
非流動資産合計		9,726	9,969
資産合計		24,929	28,658
負債及び資本			
負債			
流動負債			
営業債務及びその他の債務		4,333	5,267
有利子負債	10	6,802	7,142
その他の金融負債		428	439
未払法人所得税		80	160
その他の流動負債		3,281	3,084
流動負債合計		14,926	16,094
非流動負債			
有利子負債	10	4,009	4,374
その他の金融負債		61	47
引当金		76	78
繰延税金負債		288	213
その他の非流動負債		8	9
非流動負債合計		4,444	4,722
負債合計		19,371	20,817
資本			
資本金	6	1,100	2,297
資本剰余金	6	2,117	3,137
利益剰余金		1,953	1,944
その他の資本の構成要素		5	14
親会社の所有者に帰属する持分合計		5,176	7,393
非支配持分		380	447
資本合計		5,557	7,841
負債及び資本合計		24,929	28,658

(2) 【要約四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
売上収益	8	3,449	10,643
売上原価		1,219	4,735
売上総利益		2,230	5,908
販売費及び一般管理費		2,376	6,181
投資損益		939	264
その他の収益		2	220
その他の費用		5	34
営業利益		790	178
金融収益		15	8
金融費用		12	46
税引前四半期利益		793	140
法人所得税		198	11
四半期利益		595	152
四半期利益の帰属(は損失)			
親会社の所有者		513	78
非支配持分		81	74
		595	152
1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益 (は損失)(円)	9	29.71	4.31
希薄化後1株当たり四半期利益 (は損失)(円)	9	28.62	4.16

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第2四半期連結会計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)
売上収益	8	1,825	5,907
売上原価		728	2,746
売上総利益		1,096	3,161
販売費及び一般管理費		1,246	3,158
投資損益		814	158
その他の収益		0	211
その他の費用		4	12
営業利益		660	361
金融収益		12	5
金融費用		7	21
税引前四半期利益		665	345
法人所得税		172	42
四半期利益		492	302
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		445	280
非支配持分		47	22
		492	302
1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益 (円)	9	25.69	15.20
希薄化後1株当たり四半期利益 (円)	9	24.79	14.71

(3) 【要約四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

注記	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
四半期利益	595	152
その他の包括利益(税引後)		
純損益に振り替えられる可能性のある 項目		
在外営業活動体の換算差額	26	6
キャッシュ・フロー・ヘッジ	1	0
純損益に振り替えられる可能性のある 項目合計	28	6
その他の包括利益(税引後)合計	28	6
四半期包括利益	566	145
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	498	74
非支配持分	68	70

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

注記	前第2四半期連結会計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)
四半期利益	492	302
その他の包括利益(税引後)		
純損益に振り替えられる可能性のある 項目		
在外営業活動体の換算差額	21	2
キャッシュ・フロー・ヘッジ	1	0
純損益に振り替えられる可能性のある 項目合計	22	2
その他の包括利益(税引後)合計	22	2
四半期包括利益	470	305
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	433	281
非支配持分	36	24

(4) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第2四半期連結累計期間（自 2017年10月1日 至 2018年3月31日）

(単位：百万円)

	注記	親会社の所有者に帰属する持分				合計	非支配 持分	資本 合計
		資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	その他の資本 の構成要素			
2017年10月1日現在		1,031	815	1,139	5	2,992	402	3,394
四半期利益		-	-	513	-	513	81	595
その他の包括利益		-	-	-	14	14	13	28
四半期包括利益		-	-	513	14	498	68	566
剰余金の配当	7	-	-	118	-	118	-	118
新株発行		9	9	-	-	18	-	18
株式交換による変動	5	-	809	-	-	809	112	697
非支配株主との資本取引		-	0	-	-	0	1	2
振替及びその他の変動による増加(減少)		-	-	-	6	6	8	1
所有者との取引額等合計		9	817	118	6	715	121	593
2018年3月31日現在		1,040	1,633	1,534	1	4,205	349	4,555

当第2四半期連結累計期間（自 2018年10月1日 至 2019年3月31日）

(単位：百万円)

	注記	親会社の所有者に帰属する持分				合計	非支配 持分	資本 合計
		資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	その他の資本 の構成要素			
2018年10月1日現在		1,100	2,117	1,865	5	5,089	380	5,470
四半期利益（は損失）		-	-	78	-	78	74	152
その他の包括利益		-	-	-	3	3	3	6
四半期包括利益		-	-	78	3	74	70	145
剰余金の配当	7	-	177	-	-	177	-	177
新株発行	6	1,196	1,196	-	-	2,393	-	2,393
振替及びその他の変動による増加(減少)		-	-	-	12	12	3	8
所有者との取引額等合計		1,196	1,019	-	12	2,229	3	2,225
2019年3月31日現在		2,297	3,137	1,944	14	7,393	447	7,841

(5) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前四半期利益(は損失)		793	140
減価償却費及び償却費		128	446
投資損益		939	264
引当金の増加額		3	32
営業債権及びその他の債権の増減額 (は増加)		538	1,025
営業債務及びその他の債務の増減額 (は減少)		275	570
前渡金の増減額(は増加)		46	98
預り保証金の増減額(は減少)		58	14
営業投資有価証券の増加額(は増加)		322	365
その他		14	73
小計		725	489
利息及び配当金の受取額		2	6
利息の支払額		14	45
法人所得税の支払額		175	7
営業活動によるキャッシュ・フロー		912	536
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出		57	102
無形資産の取得による支出		318	615
敷金の差入による支出		48	49
敷金の回収による収入		21	82
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の 取得による支出	5	355	-
事業譲受による支出	5	-	136
その他		17	24
投資活動によるキャッシュ・フロー		740	795
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減額(は減少)		906	333
長期借入れによる収入		2,100	1,401
長期借入れの返済による支出		96	970
株式の発行による収入		19	2,366
親会社所有者への配当金の支出		117	176
その他		4	4
財務活動によるキャッシュ・フロー		2,807	2,949
現金及び現金同等物に係る換算差額		14	4
現金及び現金同等物の増減額(は減少)		1,139	1,612
現金及び現金同等物の期首残高		2,078	5,320
現金及び現金同等物の四半期末残高		3,218	6,932

【要約四半期連結財務諸表注記】

4. セグメント情報

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、当社の取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループでは、「One Asia」をビジョンに掲げ、アジアの様々なチャンスやエンジニアを繋ぐ架け橋となることを目指し、「オンライン旅行事業」「ITオフショア開発事業」「投資事業」と3つの事業を柱に独自性が高いビジネスモデルを事業として主な報告セグメントとして区分し、グループ戦略を立案・決定しております。

なお、各報告セグメントに含まれる事業と主要製品は、以下のとおりであります。

オンライン旅行事業	: オンライン総合旅行サービス
ITオフショア開発事業	: ラボ型オフショア開発サービス、BPOサービス
投資事業	: 成長・再生企業への投資

(2) セグメント収益及び業績の算定方法

報告されているセグメントの会計処理の方法は、要約四半期連結財務諸表作成の会計方針と同一であります。

(3) セグメント収益及び業績に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結合計	
	オンライン 旅行事業	IT オフショア 開発事業	投資事業	計					
外部売上収益	2,295	1,053	101	3,449	0	3,449	-	3,449	
セグメント間収益	-	80	-	80	-	80	80	-	
売上収益合計	2,295	1,133	101	3,530	0	3,530	80	3,449	
セグメント利益又は 損失()(注3)	29	104	923	1,058	0	1,058	268	790	
金融収益									15
金融費用									12
税引前四半期利益									793

(注1) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告収益などの事業を含んでおりません。

(注2) 「調整額」の区分は、主に各報告セグメントに帰属しない全社費用及びセグメント間取引であります。

(注3) セグメント利益は、要約四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自2018年10月1日至2019年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結合計	
	オンライン 旅行事業	IT オフショア 開発事業	投資事業	計					
外部売上収益	9,500	1,142	0	10,643	0	10,643	-	10,643	
セグメント間収益	32	308	-	341	-	341	341	-	
売上収益合計	9,533	1,450	0	10,985	0	10,985	341	10,643	
セグメント利益又は 損失()(注3)	234	111	237	583	0	583	405	178	
金融収益									8
金融費用									46
税引前四半期利益									140

(注1)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告収益などの事業を含んでおりません。

(注2)「調整額」の区分は、主に各報告セグメントに帰属しない全社費用及びセグメント間取引であります。

(注3)セグメント利益又は損失()は、要約四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

前第2四半期連結会計期間(自2018年1月1日至2018年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結合計	
	オンライン 旅行事業	IT オフショア 開発事業	投資事業	計					
外部売上収益	1,294	529	0	1,825	0	1,825	-	1,825	
セグメント間収益	-	40	-	40	-	40	40	-	
売上収益合計	1,294	569	0	1,865	0	1,865	40	1,825	
セグメント利益又は 損失()(注3)	37	40	807	810	0	810	149	660	
金融収益									12
金融費用									7
税引前四半期利益									665

(注1)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告収益などの事業を含んでおりません。

(注2)「調整額」の区分は、主に各報告セグメントに帰属しない全社費用及びセグメント間取引であります。

(注3)セグメント利益又は損失()は、要約四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結会計期間（自 2019年1月1日 至 2019年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結合計	
	オンライン 旅行事業	IT オフショア 開発事業	投資事業	計					
外部売上収益	5,376	531	0	5,907	0	5,907	-	5,907	
セグメント間収益	16	200	-	216	-	216	216	-	
売上収益合計	5,392	731	0	6,124	0	6,124	216	5,907	
セグメント利益又は 損失() (注3)	430	20	140	591	0	591	230	361	
金融収益									5
金融費用									21
税引前四半期利益									345

(注1) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告収益などの事業を含んでおりません。

(注2) 「調整額」の区分は、主に各報告セグメントに帰属しない全社費用及びセグメント間取引であります。

(注3) セグメント利益又は損失()は、要約四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

5. 企業結合

前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間に行った企業結合は以下のとおりであります。

なお、個別にも全体としても重要性が乏しい企業結合については記載を省略しております。

前第2四半期連結累計期間(自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)

簡易株式交換による株式会社EA1の子会社化

当社は、2017年9月11日開催の取締役会において、株式会社エヌ・エイチ・シー・フィフティーン(現株式会社EA1、以下、EA1社)を完全子会社とする簡易株式交換を行うことを決議し、2017年10月6日付で本株式交換を実施しました。

なお、EA1社は、まぐまぐ社の株式を28,682株保有しており、本株式交換はまぐまぐ社の株式の取得を目的とするものであります。

本株式交換後、当社はまぐまぐ社の株式を合計で85.7%保有することになります。

(1) 被取得企業の取得原価

支配獲得日に交付した当社の普通株式の公正価値 349百万円

(2) 株式の種類及び交換比率並びに交付予定の株式数

	当社 (株式交換完全親会社)	EA1社 (株式交換完全子会社)
当該株式交換に係る割当比率	1	4.21
当該株式交換により交付する株式数	148,500	

なお、当社は、本株式交換による株式の交付に際し、新たに普通株式を発行しました。

株式交換比率の算定方法

株式交換完全子会社となるEA1社については、まぐまぐ社の株式保有のみを目的とした特別目的会社(SPC)であり、他の資産負債を有しておらず、事業も行っていないことから、株式価値算定に際しては、EA1社の株式価値は保有するまぐまぐ社の株式価値と同額と判断しております。

(3) 取得関連費用の金額

該当事項はありません。

(4) 支配獲得日における資産及び負債の公正価値、のれん等

支配獲得日における資産及び負債の公正価値

現金及び現金同等物	0百万円
投資有価証券	349百万円
資産合計	349百万円
流動負債	百万円
非流動負債	百万円
負債合計 1	百万円
純資産	349百万円
非支配持分 2	112百万円
のれん 3	237百万円
合計	349百万円

1 偶発負債はありません。

2 非支配持分は、取得日における被取得企業の識別可能純資産額に、非支配株主の持分比率を乗じて測定しております。

3 のれんは、今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力であります。なお、税務上損金算入を見込んでいるのれんの金額はありません。

(5) 企業結合に係る支配獲得日以降の損益情報

該当事項はありません。

株式会社エヌズ・エンタープライズの取得

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称 株式会社エヌズ・エンタープライズ(以下、エヌズ社)

被取得企業の事業の内容 旅行業

企業結合を行った主な理由

当社の総合旅行プラットフォームであるエアトリにて航空券と宿泊施設をセットにした国内旅行商品(パッケージ商品)の取り扱いを強化すべく、日本航空株式会社の専売認可代理店であり、日本航空株式会社の国内線の仕入れに大きな強みを持つエヌズ社を子会社化することといたしました。また、同社は、ジェットスター・ジャパンの認可代理店契約も有しております。

この度の子会社化により、当社は国内旅行商品(パッケージ商品)領域へ本格参入いたします。

支配獲得日 現金を対価とする株式取得 2017年10月10日、株式交換 2017年11月6日

結合後企業の名称 株式会社エヌズ・エンタープライズ

取得した議決権比率 100%(従前の議決権比率0.0%)

被取得企業の支配の獲得方法

現金を対価とする株式取得及び当社を親会社とし、エヌズ社を完全子会社とする株式交換

(2) 移転された対価の公正価値

取得価額は相手方と秘密保持契約を締結しているため非公表とさせていただきます。

なお、当該企業結合契約に規定される条件付対価契約及び補償資産はありません。

(3) 株式の種類別の交換比率及びその算定方法並びに交付した株式数

株式の種類別の交換比率

当社の普通株式189,600株：エヌズ社の普通株式328株

株式交換比率の算定方法

第三者算定機関から提出を受けた株式価値評価レポート等を参考に、当事者間で協議の上、算定しております。

交付した株式数

当社株式 189,600株

(4) 支配獲得日における資産及び負債の公正価値、のれん等

支配獲得日における資産及び負債の公正価値

現金及び現金同等物 84百万円

営業債権及びその他の債権 202百万円

その他の流動資産 38百万円

有形固定資産 71百万円

その他の非流動資産 72百万円

資産合計 468百万円

営業債務及びその他の債務 184百万円

有利子負債 232百万円

その他の流動負債 137百万円

非流動負債 1百万円

負債合計 1 556百万円

純資産 87百万円

のれん 2 986百万円

合計 899百万円

1 偶発負債はありません。

2 のれんは、今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力であります。なお、税務上損金算入を見込んでいるのれんの金額はありません。

(5) 企業結合に係る支配獲得日以降の損益情報

当要約四半期連結損益計算書に認識されている当該支配獲得日以降における被取得企業の売上収益は388百万円、四半期損失は20百万円です。

なお、四半期損失には、支配獲得日に認識した無形資産の償却費等が含まれております。

(プロフォーマ情報(非レビュー情報))

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)

旅行靴事業の取得

(1) 企業結合の概要

相手企業の名称 株式会社創基コーポレーション

取得した事業の内容 旅行靴の製造・販売等

企業結合を行った主な理由

旅行靴の製造・販売事業に関して、当社のオンライン旅行事業でのシナジーが見込めると考えて事業を取得するに至りました。具体的には「エアトリ」での旅行商材販売とクロスセルやECサイトを通じた販売におけるマーケティング強化、法人向け販売強化、製造拠点のあるベトナムを含めたアジア展開等でシナジーの創出を図ってまいります。

企業結合日 2019年2月28日

企業結合の法的形式

当社100%子会社である株式会社創基アジアによる事業譲受

(2) 取得した事業の取得原価及びその内訳

取得した事業の取得原価 145百万円

取得原価の内訳：現金 145百万円

なお、当該企業結合契約に規定される条件付取得対価契約及び補償資産はありません。

(3) 取得関連費用

当該企業結合に係る取得関連費用は18百万円であり、要約四半期連結損益計算書の「販売費及び一般管理費」に計上しております。

(4) 企業結合日における資産及び負債の公正価値、のれん等

企業結合日における資産及び負債の公正価値

流動資産	1	161百万円
非流動資産		224百万円
資産合計		385百万円
流動負債		32百万円
非流動負債		13百万円
負債合計		46百万円
負ののれん	2	203百万円

1 現金及び現金同等物 8百万円が含まれております。また取得した営業債権及びその他の債権の公正価値は54百万円です。なお、契約上の未収金額の総額は55百万円であり、回収が見込まれない契約上のキャッシュ・フローの見積りは1百万円です。

2 公正価値で測定された純資産が支払対価を上回ったため割安購入益が発生しており、要約四半期連結損益計算書の「その他の収益」に含めて表示しております。

(5) 当社グループの業績に与える影響

要約四半期連結損益計算書に与える金額の重要性が乏しいため、記載は省略しております。

(プロフォーマ情報(非レビュー情報))

上記の企業結合が2018年10月1日に完了したと仮定した場合のプロフォーマ情報は、金額の重要性が乏しいため、記載は省略しております。

9. 1株当たり当期利益

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
基本的1株当たり四半期利益(円)	29.71	基本的1株当たり四半期損失(円) 4.31
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	28.62	希薄化後1株当たり四半期損失(円) 4.16

基本的1株当たり四半期利益及び希薄化後1株当たり四半期利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
基本的1株当たり四半期利益又は損失()	29円71銭	4円31銭
親会社の所有者に帰属する四半期利益又は損失() (百万円)	513	78
親会社の普通株主に帰属しない四半期利益(百万円)	-	-
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する	513	78

四半期利益(は損失)(百万円)		
発行済普通株式の期中平均株式数(株)	17,263,134	18,140,989
希薄化後1株当たり四半期利益又は損失()	28円62銭	4円16銭
四半期利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(株)	658,585	649,103
(うち新株予約権)	658,585	649,103

(注) 希薄化後1株当たり四半期利益については、当第2四半期連結累計期間においては、新株予約権の行使が1株当たり当期損失を減少させるため、潜在株式は希薄化効果を有しておりません。

前第2四半期連結会計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)	
基本的1株当たり四半期利益(円)	25.69	基本的1株当たり四半期利益(円)	15.20
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	24.79	希薄化後1株当たり四半期利益(円)	14.71

基本的1株当たり四半期利益及び希薄化後1株当たり四半期利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。
(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)
基本的1株当たり四半期利益	25円69銭	15円20銭
親会社の所有者に帰属する四半期利益(百万円)	445	280
親会社の普通株主に帰属しない四半期利益 (百万円)	-	-
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益(百万円)	445	280
発行済普通株式の期中平均株式数(株)	17,329,050	18,428,595
希薄化後1株当たり四半期利益	24円79銭	14円71銭
四半期利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(株)	630,004	615,515
(うち新株予約権)	630,004	615,515

12. 過去に発行した要約四半期連結財務諸表の修正再表示

当社は、IAS8号「会計方針、会計上の見積もりの変更及び誤謬」に従い、下記の項目について修正再表示を行っております。訂正された2019年9月期第2四半期の要約四半期連結財務諸表は2019年12月27日に当社代表取締役社長吉村英毅によって確認しております。

(1) その他流動負債（未払有給休暇）

当社は、未払有給休暇についてIAS第19号「従業員給付」第13項(a)の定めに従い、累積型有給休暇に係る短期従業員給付の予想コストを将来の有給休暇の権利を増加させる勤務を従業員が提供した時に債務として認識しております。

当社は、前連結会計年度末における未使用の権利の集計を誤ったことにより、2019年9月期第2四半期の要約四半期連結財務諸表におけるその他流動負債、利益剰余金並びに販売費及び一般管理費を修正再表示しております。

(2) その他流動負債（前受金）

当社の子会社において、顧客から収受した前受金の金額を誤って集計していたことにより、ため、2019年9月期第2四半期の要約四半期連結財務諸表における売上高並びに利益剰余金を修正再表示しております。